

リックの職場はモルグだ。

そういうと大抵の人間は驚く。

よくそんな気味悪い仕事を務まるなどか、気が滅入らないのかと冷やかす輩もいるが、彼は身の程をわかまえている。年は50代前半、酒浸りの冴えない中年男。

短く刈ったアツシユブロンドの髪の下には、不健康なクマの浮いた翠の瞳が淀む。こけた頬には無精ひげが散り、負け犬の代名詞のような外見を呈す。ドラッグとはなんとか手を切ったが、今も後遺症で幻覚に悩まされる。

金持ちの私邸の芝刈りや雨樋の修繕、プールの工事で口を糊するリックを見かね、旧い友人が紹介してくれたのがこのモルグの警備員だった。文句をたれたら罰が当たる。

「知ってるかりック、イギリスじゃ<sup>ローズコート</sup>を番薇の別荘や虹の部屋と呼ぶそうだ。なんともロマンチックじゃないか」

くたびれた白衣を羽織った勤務医の言葉に、リックは肩を疎める。

「夢の代わりに詰まってるのは死臭だがな」

「はは、うまいこと言うな。死体保管庫はモルグはジェーコン・ドウとジョン・ドウで大渋滞か」

「不感症の死体にお熱だから女房とご無沙汰なんだぜ」

「耳に痛エな」

リックは苦笑気味にあたりを見回す。

死体を一時保管する性質上、室温は低く保たれている。天井の電灯が冴え冴えと光を放ち、タイルが照り返す。中央にはステンレスの手術台があり、さらに奥に引き出し式のロッカーが並ぶ。

あの内部に死体が収まっているのだ。なかには損傷が激しく原形を留めてない者もある。

当初は薄気味悪さを拭えなかつたが、数ヶ月も経過する頃にはすっかり慣れてしまった。酒の力を借りて感覚を麻痺させただけかもしれない。

マイルスは盛大にため息を吐く。

「お前は？ 結婚考えた女の一人二人いねえのか」

「どうだかな。忘れちまつたね」

「結婚なんてするもんじゃねえぞ、いいことなんてせいぜい迷子になった靴下の片割れをさがす手間が省けるだけだ」

「札入れにカミさんとガキの写真入ってるくせに」

「ただのポーズさ、見せろつてせがまれた時にすぐ取り出せるように」

「自慢してエだけだろ、ごちそうさん」

マイルスが生意気盛りの娘と古女房を愛しているのは周知の事実だ。

五十路になるこの年まで家庭を持った経験がないリックは、マイルスが垂れ流す愚痴かのろけか曖昧な長話に気の抜け

た相槌を打ち、もし自分ならと人生の分岐点に立ち返る。

もしあの時、所帯を持ってたら何かが変わったろうか。

リックが働くモルグは警察の管轄下にあり、事件性のある遺体が毎日のように運ばれてくる。

ギャングの抗争で命を落とした全身タトゥーだらけの若者、あばらが浮くほど痩せさらばえた娼婦、日課のジョギング中に心臓発作を起こした肥満漢……

いずれも取るに足らない、掃いて捨てられた命だ。

都会には夢破れた人間が大勢暮らす。

うらぶれたリックもご多分にもれず、若い頃は俳優を目指してオーディションに出ていたが、回ってくるのはエキストラ同然の端役ばかり。

主人公の二枚目がヒロインにプロポーズするダイナーの店員、病院の掃除夫、警官に撃たれる犯人役……出番は合計で一時間にも足らない、エンドロールに名前がクレジットされるだけ恩の字だ。

もともと映画が好きで入った道だが現実は厳しい。いつこうに芽が出ず、三十を過ぎる頃には諦め、ケチな日雇い仕事で食い繋ぐ傍ら酒やドラッグで身を持ち崩していった。

キャスター付きの椅子からマイルスが身を乗り出す。

「こないだ見たぞ、お前がちよこつと出てるヤツ。タイトルはあく……なんだつけ、忘れちまった。低予算のB級ホラーだよな、お逃え向きにモルグが舞台の」

「何の役だったか覚えてるか」

「ダイナーの店員。店中抜けて、裏口からゴミ出しに行く」

「正解」

「個人的な意見だがよ、俺あ悪かねえと思つたぜ。ゴミ袋の底が擦れてヘンゼルとグレーテルのパンくずみてえに中身が落つこちてくなあ傑作だった。ありやパロディか？」

「ゴミの出し方褒められてもな」

リックが鼻面に皺を寄せる。マイルスは構わず笑い飛ばす。「店内で飲み食いしてる客にや大響聲、ケチャップ顔面にぶっかけられて災難だったな。ありや本物か？」

「クソ野郎め」

同情かからいか、判じかねる苦笑いで勤務医がリックの肩を叩く。

「あとあの娘！ 死体役の子！ ありやすげえな、瞬きもしねーでびつくりしちまった、CG合成か」

死体役の子。ストロベリーレッドの髪と灰色のタレ目が印象的な。

リックは皮肉っぽく笑って訂正を入れる。

「俺達の時代にンなもんあるか、ただの演技だよ」

「そうかそうか、あのクソ映画に見所があるとすりゃあの子の演技くらいのもんだ、見事に死体になりすましてた」

「死体役がウリだからな」

マイルスが妙な顔でリックを見る。

「知ってるふうな口ぶりだな。お前まさか」

「若い頃同棲してたんだよ、馴れ初めはアンタが貶したク

ソ映画」

俳優志望の男と女優志望の女。

負け犬同士、傷のなめあいじみた共存。